

# 謎の黒い人物の正体は

情報 4 年 白仁友康

「蝶々夫人」(演出：フランコ・ゼッフィレリ 演奏：アレーナ・デイ・ブエローナ管弦楽団 2004 年 指揮：ダニエル・オーレン 衣装：ワダ・エミ 振付：田口道子)

蝶々夫人の 2 幕目と 3 幕目の間や切腹のシーンで登場した  
謎の黒い衣に身を包んだ人物がいた。

私はこれを ”天照大神(アマテラスオオカミ)” ではないかと考える。

## 根拠 1 日本神話の神

天照大神は日本神話に登場する神である。

黒い人物も簪(かんざし)を付けていることから、日本に関連する人物であることがうかがえる。

簪以外に服装自体も強いていえば日本の着物をイメージさせるようなものである。

前半の幸せなシーンで登場しなかったのは、蝶々夫人がアメリカ人と結婚したり、キリスト教に改宗したばかりだからだろう。

## 根拠 2 性別

天照大神は別名に女性を表す言葉があることから女神とされている。

黒い人物も明らかに女性である。

## 根拠 3 太陽の神

天照大神はその名の通り太陽の神様である。

神話によると他の横暴な神に反抗するため岩の中に隠れたことがあるようである。

このとき世界は陽光が降り注がなくなったため真っ暗になった。

この黒い女の登場シーンでは必ず近くに岩がある。

そして体勢を低くして隠れるように蝶々さんをのぞき見している故に舞台も真っ暗になっていると考えられる。

また、場面も蝶々夫人が絶望する暗いシーンである。

スズキ「奥様の太陽は失われてしまった」

## 根拠 4 顕幽両界

天照大神は顕幽両界を支配する天地大主宰でもあった。  
蝶々夫人の死の際現れたのは死神のような役割であったと言える。  
演出家は死を連想させるものとして彼女をおきたかったのではないだろうか。

#### 根拠5 八咫鏡(ヤタノカガミ)

八咫鏡は天孫降臨の際、天照大神がニニギに渡した三種の神器の1つであり、現在天照大神を祀っている神社の総本山となっている伊勢神宮に安置されている。

当然であるが鏡は自分を映すために使うものである。

蝶々さんが刀を腹に刺して倒れた際何が起こったか、黒い女も同時に倒れたのではないか。

これは映し身であると言える。

ちなみに鏡を渡した際天照大神は「これを私だと思って大切にしなさい」と言っている。

以上の理由より私はこの黒い人物を天照大神であると推測した。

演出家がなぜ今回に限り天照大神を採用したかは不明だが、蝶々さんの悲しみをより一層引き立てるような作品に仕上がっている。